

※この画像は、当該ページに限って記事利用を承諾したものです。

転載並びにこのページへのリンクは固くお断りします。

安価に自主防犯

Aーカメラ活用「スマートセキュリティ」

に自主防犯できるのが特徴で、子どもや高齢者らの見守りに活用でき、緊急時には24時間いつでも警備員が駆け付けるオプションもある。実績ある警備サービスと最新技術という両社の強みを生かし、地元企業ならではの「顔の見えるサポート体制」で安心安全を提供する。(石岡由美子)

弘前

住まいの防犯と便利な暮らしの実現をサポートしようと、弘前市の津軽警備保障(吉田勇太代表取締役社長)は、同市の企業「イベントワンダー」(田中秀太代表取締役)が展開する「イーデバ」の高性能AI(人工知能)カメラを活用した新たなサービス「TS Pスマートセキュリティ」を提供する。安価

津軽警備保障と「イーデバ」で新サービス

高齢者の見守りにも

津軽警備保障は創業51年、社長(48)は、地域の少子高の実績ある警備サービスを、高齢化が進む中で、より省力化する。警備業務は法人向けに「化を図りながら住民のニーズに応じた」暮らしの安全



安全安心な新サービス「TS Pスマートセキュリティ」をPRする吉田代表取締役社長(中央)と田中代表取締役(左)。必要に応じて警備員が駆け付けるサービスもある。

を提供したいと、イーデバの特徴を生かした新サービス展開を模索してきた。イーデバを展開するイベントワンダーは、IoT(モノのインターネット)ハードウェアやソフトウェアの提供、管理、開発を手掛ける企業で、田中代表取締役(42)が2年ほど前に設立。IoTセキュリティの先駆的存在の米企業「アラーム・ドットコム」と直接契約し、イーデバのブランド名で同社の製品を販売している。

弘前市を拠点とする両社のコラボによる販売される新商品は、実績ある警備サービスと最先端AI技術を組み合わせた内容。自宅の室内や屋外にAI防犯カメラを設置し、スマートフォンやパソコンからリアルタイムで見守りや監視をすることが可能。異常を感知した場合はスマホなどに通知される仕組みで、スマホからカメラにアクセスすれば状況を確認できる。

防犯カメラは室内用、屋外用があり、用途に応じて選べる。使用に当たってはインターネット環境が必要だが、最新技術を生かした便利なシステムで防犯や見守りが可能になる。契約者には警備実施中の証となる警備ステッカー2枚を提供する。

追加オプションもさまざまなあり、異常時に自宅から離れた場所にいるすぐに駆け付けられない場合などは、警備員が駆け付け対応する。室内カメラには通話機能もあり、遠方からカメラ側の相手と対話することもでき、高齢者の見守りだけでなく声掛けもできる。玄関ドアの鍵を電子キー化し、スマホで開閉の操作や状態確認ができるといった機能もある。イーデバのサービスは、一つのアプリで防犯や見守り、スマートロック機能などすべてに対応できるのが特徴でもある。

今回の自主防犯システムは、警備会社が行う機械警備(オンラインセキュリティ)よりも安価で、「両社のタッグにより大手企業にも負けないサービス展開が可能になった」と話す吉田代表取締役社長。「防犯目的のカメラやグッズはたくさん流通しているが、専

用スタッフが現場に向き、ニーズに応じてサービスを提案させていただく。その後も必要に応じてサポートしていく。そこが地元企業の強み」と強調する。サービス利用料はライトプラン(AIカメラ1台)が月額1680円から、スタンダードプラン(AIカメラ1台と開閉人感センサー)などの機能追加(は同3300円)からで、設置条件によって変動する。別途、工事費など初期費用が必要。「今はちょうどお盆の時

期で実家に帰省している方も多いと思う。今回のサービスを遠隔地からでも見守ることができる」とPRする吉田代表取締役社長と田中代表取締役。「互いの企業の強みを生かしながら一緒に地域貢献していきたい」とし、「地元企業のタッグが若い人たちに夢を与えをきっかけになれば幸い」と話している。

新商品に関する問い合わせは津軽警備保障(☎0172-813300)へ。

期で実家に帰省している方も多いと思う。今回のサービスを遠隔地からでも見守ることができる」とPRする吉田代表取締役社長と田中代表取締役。「互いの企業の強みを生かしながら一緒に地域貢献していきたい」とし、「地元企業のタッグが若い人たちに夢を与えをきっかけになれば幸い」と話している。

新商品に関する問い合わせは津軽警備保障(☎0172-813300)へ。